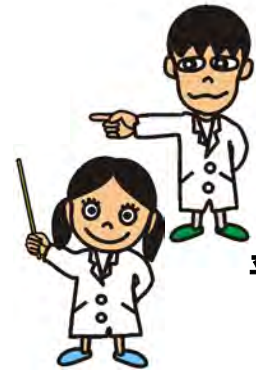








感染症に気をつけよう！




平成26年
【4月号】


横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明 【 】は解説付き既刊号
インフルエンザ	 流行	 減少	減少傾向ですが、まだ警報が解除されるレベルを上回っています。予防や早目の受診を心がけましょう。【2月号】
麻しん (はしか)	 散発	 横ばい	海外からの輸入例が、首都圏で増えています。感染力がとても強いです。2回の予防接種で防ぎましょう。【3月号】
A型肝炎	 散発	 やや増加	全国的に例年の報告数を大きく上回り、国からも要注意の通知が出ています。下の解説をご覧ください。

クリック


今、気をつけたい感染症 A型肝炎

 市内でも昨年は4件、今年は3月までにすでに5件報告されています。以前は、冬から春にかけて増えてきましたが、最近では夏でも発生しています。また、子供の患者はほとんどみられず、**高齢の患者が目立っています。**

 **A型肝炎ウイルス**が原因です。このウイルスは**便に大量に排出**され、料理する人の手を介してや、自然に含むようになった生カキを食べるなどして、**汚染された水・食品が口に入ると感染**します。

潜伏期間は長く、2~6週間です。**初めは風邪のような症状**(発熱・のどの痛み・頭痛)で、**その後、食欲不振・全身倦怠(けんたい)感・黄疸(おうだん)**が現れます。

通常、1~2か月で治りやすいですが、**年齢が上がると重くなる傾向**があります。まれですが、**命に関わることもあります**(劇症肝炎)。

 症状が出る前から便中へのウイルス排出が始まるので、感染が広がりやすく、**施設内や家族内では十分な注意**が必要です。子供では感染しても症状が出ない例が多く、そのまま集団発生の感染源になってしまう場合もあります。

予防には正しい手洗いが大事です。また、**衛生状態に問題のある外国への旅行前などには、ワクチンの接種**もすすめられます。

